

# 国際交渉における REDD+のインプットの必要性

(公財)地球環境戦略研究機関 IGES

森林保全タスク 主任研究員

山ノ下 麻木乃

# 概要

- これまでのREDD+の議論、現状（REDD+の特有の問題）
- 今後のREDD+の交渉
- 日本からの交渉へのインプットの必要性

# REDD+（森林セクター）とは

気候変動の観点から

- 気候変動緩和の実現に不可欠
- 途上国・農村部が参加することができる

日本にとって

- 自国での削減に加え、途上国支援を通じた削減の達成するためのオプションの1つ

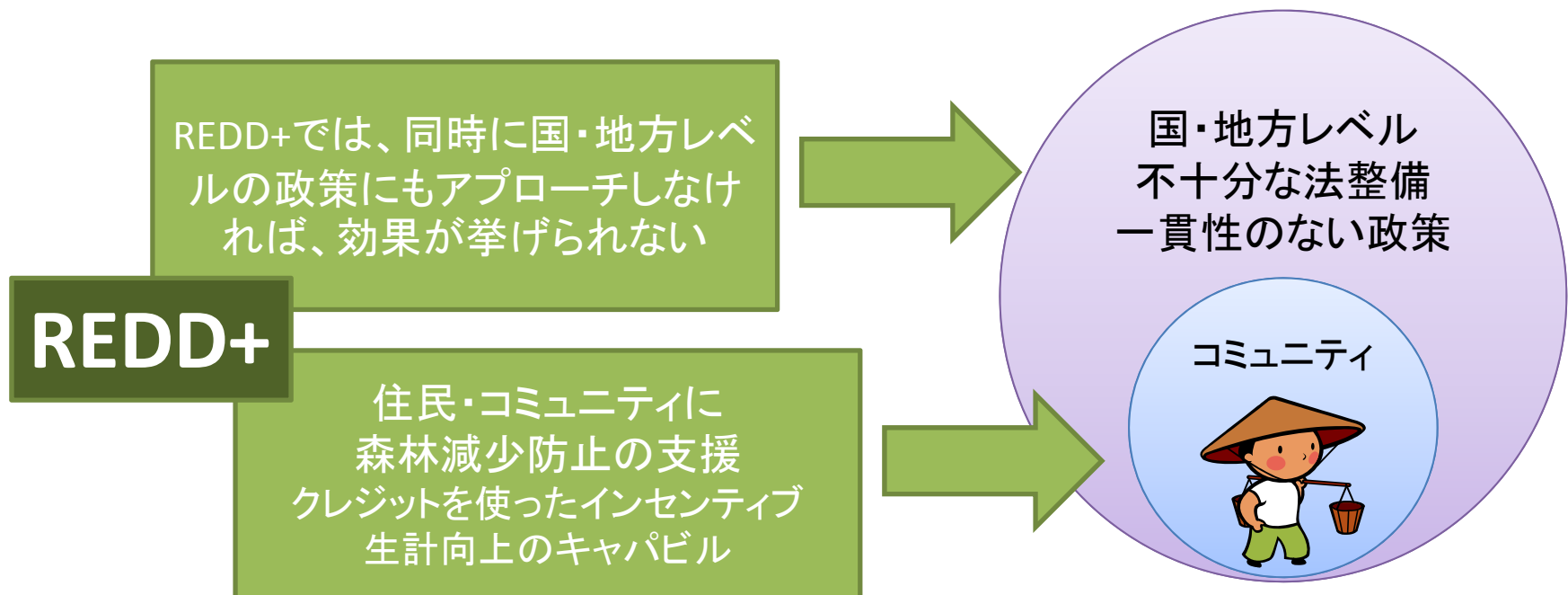
# REDD+は新しい課題ではない

## 地球環境問題として

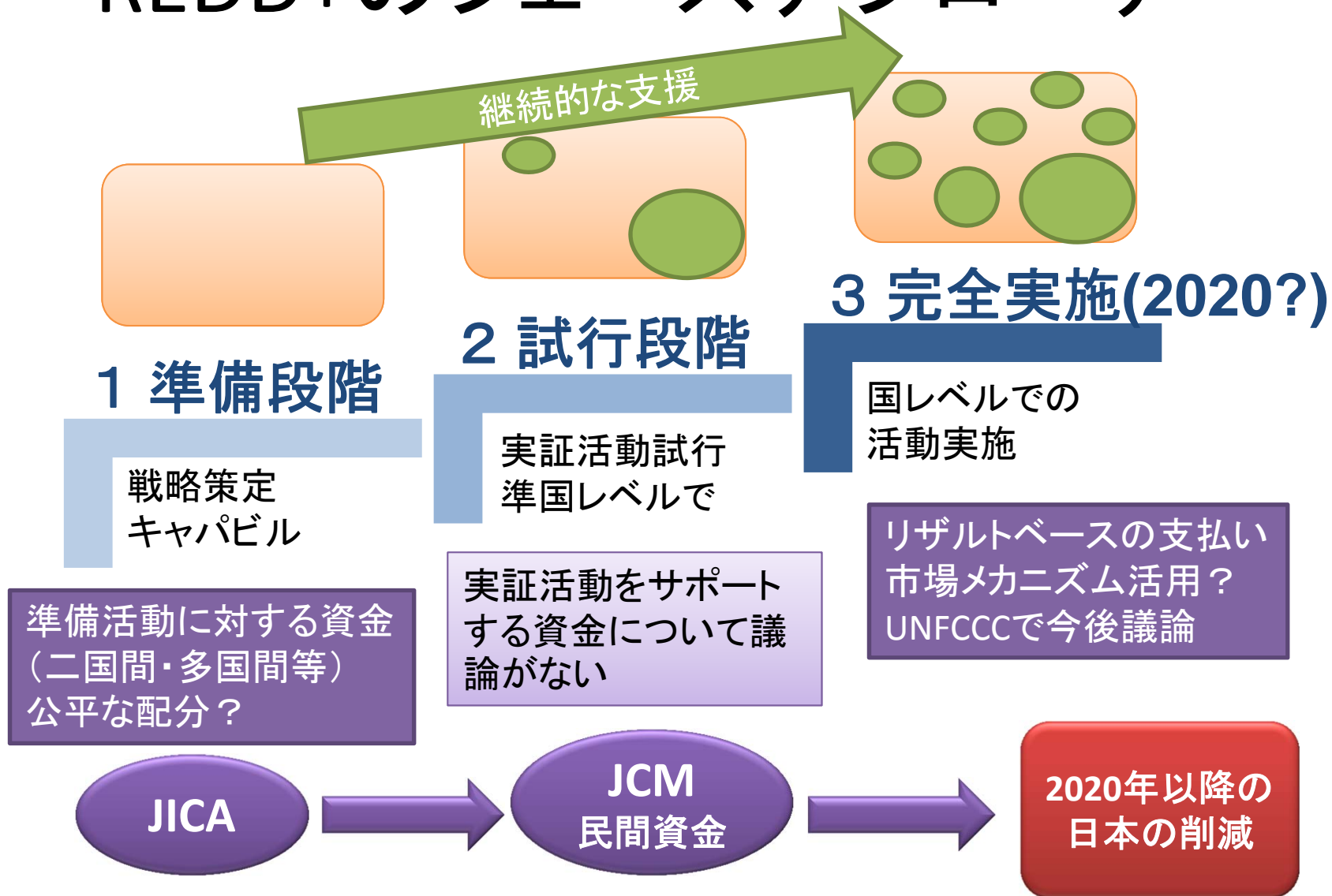
- 森林減少はこれまでも問題であり、取り組みもなされたが、効果はあがらなかった
  - － 森林の外部不経済（農地への転換）
  - － 森林ガバナンス（不適切、不透明な土地利用計画・管理、権利問題）
  - － 途上国農村部の貧困・人口増加
- 森林減少問題に再度取り組むチャンス
  - － これまでになかったアプローチを追加する
    - カーボンによって経済的な価値の付与

# REDD+は国レベル？

- プロジェクトレベルのみでは実施が困難
  - 森林セクターのキャパシティは、ビジネスセクターに比べて低い
    - インフラ整備の必要性
  - 国・地方・コミュニティレベルにアプローチが必要
    - 国の政策を施行するのみではない



# REDD+のフェーズアプローチ



日本のREDD+活用のための戦略を持つ必要がある  
どういうREDD+なら活用できるのか? → 交渉でのインプット

# REDD+の成功はコベネフィットをもたらす

- 生物多様性・土壌・水保全
- 貧困削減
- 持続可能な開発
- 適応

＝環境省がREDD+を推進する意味

- －他の条約(生物多様性条約)、イニシアティブとのシナジーの検討(効率・効果的な途上国支援)

# 交渉におけるREDD+と他議題の関連

- REDD+の特有の問題はこれまでかなり議論され、今後は他議題との関連を検討する下地が作られた
- NAMA
  - REDD+はLULUCFセクター報告の一部
  - REDD+のMRVで国別報告書・隔年報告書を活用？
  - 交渉への影響の可能性
    - NAMAではリザルトベースの支払いは議論されていないが・・・
    - REDD+のMRVの議論はかなり進んでいる
- 資金
  - GCFでのREDD+の取り扱い
- 市場メカニズム・非市場メカニズム
  - 他のセクターとの整合性
- 2020年以降の全体枠組
  - REDD+をどのように取り扱うのか？



# まとめ

- これまでのREDD+の交渉では、森林セクター特有の問題(方法論、キャパシティ)が議論され、収束しつつある
- これを踏まえ、現場では二国間・多国間支援を通じて、REDD+の準備活動が実施されている
- 今後は、REDD+固有の議論から他議題と関連する、全体の中での位置づけに関する議論に移行
- 日本国内でもREDD+の位置づけを議論し、交渉にインプットしていく必要がある